

< もくじ >	
1. 戦後70年一『袖井会長談話』	1
『言いたい・聴きたい・反論したい会』のご案内	2
2. 今年度連続講座第1回の受講申し込み受付中です	3
3. 研究会からのお知らせ	3
4. 各研究会の概要報告	4

1. 戦後70年一『袖井会長談話』と『言いたい・聴きたい・反論したい会』のご案内

戦後70年に当たり、袖井会長談話『戦後70年に想う』を掲載（7月25日HPの転載）致します。私たちは一人一人よく噛みしめて読んでみたいと思います。そして折角の機会でもありますので、会長談話から論点を抽出し、より深く、より幅広く議論を重ね、「安心の未来」への展望を見出すことを目的とした『言いたい・聴きたい・反論したい会』開催を企画しました。下記の開催要領をお読みいただき、参加申込み下さいますようご案内いたします。

(1) 袖井会長談話『戦後70年に想う』

また暑い夏がやってきました。今年は戦後70年の節目にあたる年です。時とともに忘れられがちな第二次大戦の意味を考え直し、平和であることの有難さと平和を維持することの大切さを確認したいと思います。

一般社団法人シニア社会学会は、高齢者ができるだけ自立し、社会に参加し参画することによって活力ある高齢社会を実現することを狙いとして15年前に設立されました。私たちの願いの一つは、誰もが安心して暮らせる平和な社会を構築し、それを次世代に渡していくことにあります。

しかし、今日では、安倍政権による強引な日本国憲法の拡大解釈によって、集団的自衛権の行使が可能になり、日本が戦争に巻き込まれる可能性がきわめて高くなりました。誰もが安心して暮らせる平和な社会が、遠ざかりつつあることに危機感を抱かざるを得ません。

日本が世界一の長寿国になり、物質的な豊かさを享受できるのは、戦後70年の間、一度も戦争に巻き込まれることなく、若い命が失われることがなかったからです。憲法9条が、ノーベル平和賞の候補にあげられるのも、その価値が国際的にも認められているからにほかなりません。

近年、日本社会が戦前に似てきたという声を聞くことが多くなりました。特定秘密保護法の制定、教育やマスメディアへの自民党による露骨な介入は、言論への弾圧が行われた戦前を彷彿とさせます。

安倍総理は、戦後レジームからの脱却を唱えています。沖縄には日本政府の統治が及ばない米軍基地の7割強が集中しています。同じ敗戦国であるドイツやイタリアにも米軍基地はありますが、それぞれの政府が統制力を保持しています。言い換えれば、沖縄では、未だに占領が継続しているので



あり、とうてい独立国とは言えない状況下に置かれているのです。戦後レジームからの脱却を目指すのならば、まず対米隷属から抜け出すことが必要です。

安倍総理が8月中旬に公表する予定の「談話」に、第二次大戦中、日本がアジア諸国に与えた被害に対するお詫びの文言が入るか否かが論じられています。戦争を知らない世代の中には、「いつまでお詫びを続けるのか、いかげんに終わりにしてほしい」という声があることは確かです。

足を踏まれた人の痛みは、足を踏んだ人にはわからないと言います。かつての日本は、アジア諸国の足を踏んでしまいました。ワイツゼッカー元ドイツ大統領は、1985年5月8日に連邦議会で行った「荒れ野の40年」と題する演説の中で、「罪の有無、老幼いずれを問わず、われわれ全員が過去を引き受けねばなりません。だれも過去からの帰結に関わり合っており、過去に対する責任を負われています」と語っています。あれは軍部のしたことであって一般庶民には関係ないと口を拭いているわけにはいかなのです。「終わりにしたい」という言葉は、足を踏まれた側からのみ発せられるべきでしょう。

戦後生まれが8割に達する今日、戦時中および敗戦直後の苦勞を知っている世代は少数派になり、その高齢化が進んでいます。これまで戦争体験者の多くは、口を閉ざしてきましたが、今こそ、その体験を次世代に伝えなければ永遠にその機会は失われてしまいます。

映画やテレビ、そしてゲームのようなヴァーチャルな世界でしか戦争を知らない世代にとって、戦争はかっこいいものに見えるかもしれません。しかし、いったん戦争に巻き込まれれば、普通の市民が被害者になるばかりでなく、加害者にもなりうるのです。

誰もが戦争の被害者にも加害者にもなることなく、安心して暮らせる長寿社会を実現し、それを次世代に伝えていくために、シニア社会学会は、多くの人びとや団体と力を合わせて、今後とも活動を続けていく覚悟でございます。

2015年7月25日

一般社団法人シニア社会学会会長 袖井孝子

(2) 『言いたい・聴きたい・反論したい会』の開催要領

1) 開催方法：3回開催する。各回論点（テーマ）を設定し、袖井会長を囲み座談会形式で自由に討議する。各回の論点（テーマ）は下記の通り。

第1回：「私にとっての戦争と平和」— 戦後70年、安心して平和に暮らせるようになったのは何故か、敗戦からの出直し力を問う。

第2回：「安倍政権の日本国憲法拡大解釈と集団的自衛権の行使」— 同じ間違いを繰り返そうとしていないか、反省力を問う。

第3回：「次世代にどう道をつけるか」— 開戦、敗戦、復興、高度成長、成熟の全てを経験したシニアの構想力、推進力を問う。

2) 開催日時：第1回：9月16日（水） 14：00～16：00

第2回：10月21日（水） 14：00～16：00

第3回：11月18日（水） 14：00～16：00

3) 開催場所：シニア社会学会事務所

4) 参加費：無料

5) 参加人数：会員・非会員共可、各回8名（先着順）

6) 申込方法：① 氏名 ② 参加の回数（各回でも3回一括でも可）

③連絡先を明記し、eメール、FAXで事務所まで。

（事務局担当 島村）

2. 今年度連続講座第1回の受講申し込み受付中です

第1回講座の概要をお知らせいたします。お申し込みをお待ちしております。

◆第1回講座は、2015年9月5日(土)開催です。◆

講演テーマ：「人生100年時代、悔いのない人生のしめくくりに向けて」

講師：袖井 孝子（お茶の水女子大学名誉教授、当学会会長）

（講演要旨）

1970年には、わずか310人だった100歳以上人口が、今や6万人に達するまでになりました。人生が短く、家族や地域社会の絆が緊密であった時代には、人生をいかにしめくくるのかについて思い悩むことは、ほとんどなかったでしょう。しかし、今や人生の節目ごとに自分自身で、その進路を決めなければなりません。

その人らしい、尊厳のある生の終わりを迎え、死後、遺された家族が心安らかに暮らすためには、終末期医療や葬儀・墓・相続などについても、自分の希望を明らかにしておくことが必要です。終末期における意思決定のあり方や意思決定能力が失われた際に求められる支援策などについて考えたい。

※全6回については既にお送りしましたチラシかホームページをご参照ください。

1) 場 所：東京銀座・資生堂 9Fホール

2) 開催要領：各回とも、14時～16時の開催。募集人数は最大45名。

各回の参加費は、会員2500円、非会員3000円。会場にてお支払いください。

6回一括申込みもあります。8月末の締め切りとなります。

（一括申込みは、会員：12,000円、非会員：15,000円で事前の振り込み。）

※お申し込みは、①氏名、②参加の講座、③連絡先を明記し、eメール、FAXで事務局まで。

※今後とも各回ごとにJAAS Newsなどで随時お知らせいたしますが、ご家族やご友人などにもお声掛けをお願いいたします。多数の方のご参加をお待ちしております。（事務局担当 鈴木）

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第24回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2015年8月27日(木) 15:00～18:00

2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ：①「ネットコミュニティ」座談会結果報告

②「個人投稿」報告

③「研究会活動とコミュニティ学」報告

*なお、当報告内容は『出版本』に掲載予定です。

4) 参加費：300円

(島村記)

(2) 「シニアのICT活用研究会」第22回開催のお知らせ

9月の月曜日に開催の予定で調整を進めています。

開催日、話題提起者が決定次第、シニア社会学会のホームページでご案内致します。

1) 日 時：2015年9月の月曜日 17:00～19:00

2) 場 所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 会議室

新宿区新宿一丁目34番5号直田ビル3階

3) 話題提起者：未定

4) テーマ：未定

5) 参加費：500円

※参加のご連絡およびご質問については、澤岡 sawaoka@dia.or.jp (@は、半角にしてメール送信ください)までご連絡ください。

(3) 第24回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2015年9月28日(月) 18:00~20:00
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
 - 3) 報告者：川副早央里(早稲田大学大学院博士後期課程)
 - 4) タイトル：「災害記録の収集と記憶の継承
—いわき明星大学震災アーカイブ室の取り組みから—」(仮)
 - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

(4) 第89回 社会保障研究会 開催のお知らせ

- 1) 日 時：2015年9月30日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者：王 凍(城西国際大学大学院)
 - 3) テーマ：「一億人を超えた中国の高齢者の介護事情について
～山東省青島市での調査を通して」
 - 4) 会 場：労働者協同組合 会議室
東池袋1-44-3 池袋I SPタマビル 8階
- ※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

(5) 第25回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2015年10月30日(金) 18:00~20:30
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス(会議室は未定)
 - 3) 報告者：柄本三代子(東京国際大学準教授)
 - 4) タイトル：食の『安全・安心』をめぐる取り組みについて
 - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

4. 各研究会の概要報告

(1) 第23回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年7月23日(木) 18:30~21:00
- 2) 報告者：宮定 章氏(認定NPO法人 まち・コミュニケーション代表理事
専修大学 非常勤講師、同大学社会科学研究所客員研究員)
- 3) タイトル：“集落存続危機”と“集落存続への模索”～復興事業(長期化)の中で、石巻沿岸部の被災者の生活再建・居住地選択から見えること～
- 4) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 新33号館 16階 第10会議室

宮定さんは、平成7年の阪神・淡路大震災のあと、復興支援のための活動に現地入りし、住民たちの側に立ちながら、そのニーズを探り、試行錯誤を重ねるなかでボランティアとして復興支援に携わってきました。その経験を活かして、東日本大震災の被災地、石巻市の雄勝町を含む地域に入られ、現在に至るまでユニークな復興支援活動を続けておられます。その視点は、異なる地域にバラバラに避難している人びとの立場に立って、それらの人びとの望む「生活再建」を実現していくことに置かれている点が特徴です。とくに、行政中心の集団移転や災害復興住宅への収容を進めようとする復興計画から一定の距離を置き、住民たちの職業上の立場や世代の違いにもとづく利害の違いや見解の違い、復興のイメージの違いに繊細な注意を払いながら、それらの人びとの動きに寄り添っていこうとする活動を目指しています。人びとの抱える問題をともに考えていく姿勢と取り組みは、多くの不安のなかで、自らの判断で納得しながら復興を進めていこうとする住民たちにとっても、また、住民同士の間起こる意見対立と摩擦に遭遇しながら、多くの地域で支援の難しさを経験しているサポーターたちにとっても、参考になる貴重なお話を伺えたように思います。

(長田記)

(2) 第88回 社会保障研究会の報告

- 1) 日 時：2015年7月22日(水) 18:00~20:00
- 2) 場 所：お茶の水女子大学本館315室
- 3) 講 師：大久保淳一
- 4) テーマ：「人生、何度でもチャンスは、ある！」

大久保さんは、ステージ3の睾丸の癌から生還し、100キロマラソンに挑戦した奇跡の人。外資系企業に勤める働き盛りの40代に、たまたま骨折して入院した病院で癌が発見された。癌は腹部、肺、リンパなど広範に転移していたが、幸い手術に成功した。しかし、抗癌剤の副作用から生存率20%の肺線維症を発症。肺の機能の3分の1を失う。

多くのアスリートたちが、癌を克服して競技生活を続けていることに気付き、100キロマラソンへの復帰を誓う。横断歩道を渡りきれないほど肺機能が低下していたが、トレーニングを重ね、ハーフマラソン、フルマラソンに挑戦し、とうとう「サロマ湖100キロウルトラマラソン」に出場して、制限時間である13時間ぎりぎりの12時間39分41秒で完走。退院後は、元の職場に復帰し、短時間勤務を続けたが、その後退職し、癌患者とその家族を支援する5 years という一般社団法人を立ち上げ、その活動を広げている。マラソン人生はまだまだ続き、2017年には「サハラ砂漠250キロマラソン」に挑戦したいとのことである。

癌であることを告げられると、多くの人は人生を諦めてしまいがちだが、決して諦めることなく挑戦を続ける大久保さんの前向きな姿勢は、参加者に感銘を与えた。良い医師にめぐりあったこと、17時間に及ぶ手術に成功したこと、抗癌剤が効いたこと、職場の理解が得られたこと等等など、ある意味では恵まれていたと思えるが、幸運を呼び寄せることができるのも能力のうちだろう。何よりも、大久保さんの生き方を受け入れ、支えてきた奥様の力が大きいのでは、というのが参加者一同の感想であった。(袖井孝子 記)

(3) 第23回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年7月28日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：安田コーディネーター司会による座談会：「小説『限界集落株式会社』を素材に、コミュニティの構造を討議。」(第2回)
*7月16日(木)開催した第1回座談会に引き続き、第2回を開催しました。今回は都市コミュニティの構造をテーマに参加者夫々が住んでいる地域の特徴などについて意見交換が行われました。(島村記)

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX:(03) 5778-4728
eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: <http://www.jaas.jp/>